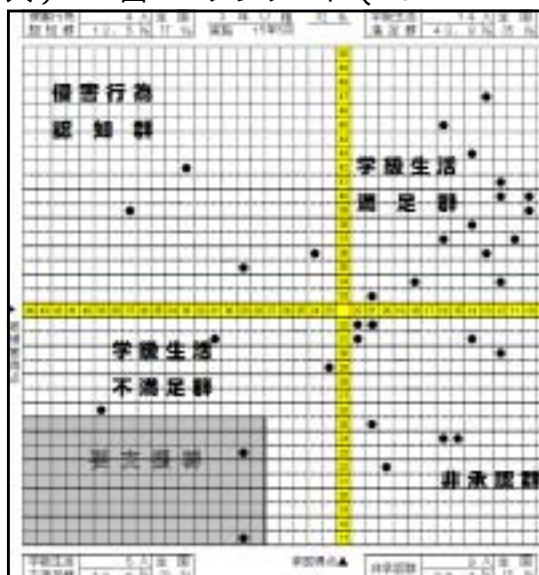


仲間と語り合う中で、心を豊かにできる生徒の育成
～ かかわり合い活動，行事を通した仲間づくりの実践～

1 学級集団の状況（中学校3年生 男子 19人，女子 18人） 図1 アンケートQ-U

4月から3年としてやる気に満ちたA子を，B子をはじめとする男女数人のグループが冷ややかな目で見たり，中傷する手紙を机の中に入れたり，およそ心の交流とはほど遠い学級のスタートであった。本学級の男子はにぎやかな生徒を中心に，映画などの話題で放課などは笑顔で騒いでいる。しかし，学級の話し合いや授業になると自分から積極的に前に出る生徒は少なく，静かにしている者が多い。女子は前向きに発言したり同調したりする生徒があり，学級の話し合いに大きく貢献している。約半数は何となく周りについていく傾向がある。



5月に「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」を行った（図1）。学級生活満足群の生徒がやや多く，修学旅行後ということもあり，交友関係が増えつつある状況であった。しかし，左方向に散らばっている生徒たちをみると，まだクラスになじめていない様子であった。

このような実態から，さらに親密度を増し，心の交流を図れるような学級をつくっていくことが必要であると感じた。生徒たちが語り合いかわり合うことができる活動の場を設定していけば，お互いを認め合い，協力し合ったり，喜び合ったり，心を豊かにできる関係づくりの場ができるであろうと考えた。その機会として，学校行事を中心として実践していくことにした。特に，学級単位で取り組む体育大会の「応援合戦」と文化祭の「合唱コンクール」に重点を置いた。

特に気にかけていきたい抽出生徒として，3人（A子・B子・C子）を見ていくことにした。A子は，3年生になってやる気に満ちており，体育委員にも進んでなり，学習にも張り切って取り組んでいた。そんな中で自分を中傷する手紙を見付け，一時は落ち込んだが，負けるものかとがんばり続けていた。B子は，母親とのトラブルや部活動での友人関係で悩んでいた。人の批判めいたことを友達同士で口にすることがあり，難しい表情をしていることがよくあった。また，C子は対人関係が非常に苦手で，もともと少ない人数や担任とは楽しく会話できるが社交的ではなかった。5月後半の修学旅行の折りにそれまでうまくいっていた友達関係が自分のちょっとした言葉で崩れ，孤立状態となった。学級全体の親密度が高まることで，C子も学級の和の中に取り込まれることを期待したい。

特に気にかけていきたい抽出生徒として，3人（A子・B子・C子）を見ていくことにした。A子は，3年生になってやる気に満ちており，体育委員にも進んでなり，学習にも張り切って取り組んでいた。そんな中で自分を中傷する手紙を見付け，一時は落ち込んだが，負けるものかとがんばり続けていた。B子は，母親とのトラブルや部活動での友人関係で悩んでいた。人の批判めいたことを友達同士で口にすることがあり，難しい表情をしていることがよくあった。また，C子は対人関係が非常に苦手で，もともと少ない人数や担任とは楽しく会話できるが社交的ではなかった。5月後半の修学旅行の折りにそれまでうまくいっていた友達関係が自分のちょっとした言葉で崩れ，孤立状態となった。学級全体の親密度が高まることで，C子も学級の和の中に取り込まれることを期待したい。

2 実施した場面と時期

月	学校行事	実施した場面	ねらい	内 容
4	入学式	1 学級活動	信頼体験	「いろいろ握手」 徐々に難しくなるスタイルの握手を楽しみながら行い，親密感を高めていく。指先握手・両手握手・逆さま握手など。

月	学校行事	実施した場面	ねらい	内 容
4	学級開き	2 学級活動	自己理解	「私の発達曲線」 進路学習の一環で自己理解を図るため、自分の成長をアンケート形式で確認し、数か月後また比較する。
		3 道徳	他者理解	「スゴロクトーキング」 本文参照
5	修学旅行	4 学級活動	信頼体験	「新聞紙の使い道」 新聞のいろいろな使い道を考えて言葉を使わずに仲間に伝えたり受け取ることで、親密感を高める。
		5 総合的な学習の時間	感受性	「心のストレッチ」 自律訓練法で、「両手両足が重く(温かい)」などの自己暗示で、心と体の力を抜いて上手くリラックスする方法を身に付ける。
6		6 総合的な学習の時間	自己理解	「究極の学校選択」 A、Bのいくつかの違う条件の学校のうち、自分はどちらを選択するか考えることで自己選択力を培う。
		7 学級活動	感受性	「呼吸を数える」 呼吸数を数えることで呼吸に注意を向け、落ち着きを取り戻し、リラクゼーションを図る。
		8 学級活動	自己受容	「気になることスッキリ！」 自分の心の中で気になることを整理して名前を付けて書き出すことで、その後のすっきりした気持ちを感じる。
9	始業式	9 道徳	信頼体験	「肩もみエンカウンター」 軽いスキンシップで緊張をほぐしながら、夏休みの出来事などを話したり、リラックスして受容的に聞いたりする。
	体育大会	10 道徳	他者理解	「私たちの得た宝物(行事前後に2時間)」 本文参照
10		11 学級活動	自己理解	「私の発達曲線」 を参照
11	合唱コンクール	12 学級活動	他者理解	「私たちの得た宝物(行事前後に2時間)」 本文参照
		13 総合的な学習の時間	自己理解	「自分探し(エゴグラム)」 エゴグラム・チェックリストで生徒の自己理解を深め、教師が生徒の自己啓発への励ましの視点をもつ。
12		14 学級活動	自己受容	「内観しよう」 過去にお世話になった人について具体的な状況などを思い出すことで、支えられてきた自分に気付く。
1	始業式	15 総合的な学習の時間	自己主張	「月世界」 月面に不着した状況で10種類のものに、必要と思われる順番をグループで話し合っ決めて、合意することの難しさや大切さを体験的に学ぶ。
2		16 総合の時間	自己理解	「20才の私への手紙」 20才への自分に今の希望や夢をまじえながら手紙を書くことで、自己理解を図る。
3	卒業式	17 学級活動	感受性	「別れの花束」 全員から学級全員へ短いメッセージを送ることで感謝の心をもたせる。

3 実践

昨年度、実践に入るに当たって、一昨年度2年生で実践してきたことを踏まえ、まずは継続していくことが大切であると考えて、生徒の実態や行事の予定に合うように年間を見通した計画を立てた。1年間の実践を振り返ると、生徒は行事を通して大きく変容した。そこで、多くコミュニケーション

がとれ、人間関係づくり、学級づくりの基盤となった「スゴロクトークング」と2つの行事で行った「私たちの得た宝物」の3つの実践について報告する。

(1) 活動③「スゴロクトークング」

ア ねらい

- ・ スゴロクゲームを通して楽しく会話することで、普段はなかなかできない、自分の考えを友達同士で語り合ったり聞き合ったりすることができ、お互いを理解し合うことができる。これにより、行事での係ごとの話し合いを始めからスムーズに行うことができるようにする。

イ 内容

- ・ 班ごとに机を寄せて、真ん中にスゴロクをおく。
- ・ サイコロを振る順番を決める。
- ・ サイコロの目だけ進み、止まったマスに書かれているテーマについて話す。

ウ 参加者の様子と課題

4月当初の学級で空いた時間を利用。名簿順に並んだ座席のまま、6班をつくり既存のスゴロクと大きめのサイコロを各班に渡した。にぎやかな生徒が3人いた班はすぐに楽しそうにスゴロクのマスに書かれた内容で話を弾ませて、聞く側も笑顔であった。他の班も時間が経つにつれ、笑い声があがるようになってきた。生徒の感想はしたのとおりである。

- ・ 普段あまりしゃべらない人の話も聞けて、とってもおもしろかった。
- ・ こんな風に話をすると、私が思ってもみないことを考えている人がいることが分かった。
- ・ もっとスゴロクをやる時間をつくってほしい。

この感想から、同じクラスにいてもあまり会話をしない人もいるので、どんな人物なのかを知る機会があると、お互いに興味をもってかかわることができることが感じられる。生徒同士の相互理解を促すには会話をすることが効果的な方法であった。スゴロクのマスに書かれている「好きな食べものは？」や「行ってみたい国は？」などその人なりの理由も含めた話題に、驚きや共感、疑問などを感じながら、気持ちの交流を行うことができ、放課などでも気軽に話せるようになっていった。1学期の間に数回行ったが、特に男女の仲がよくなって行くのを放課の様子などから感じた。その中で、B子もスゴロクをやっている間、口調は相変わらずきつく感じられたが、笑顔で話したり聞いたりしていた。C子はスゴロクのマスの話題に詰まってしまうことが多く、笑顔があまり見られなかった。やはり、人と話すことが苦手なようであった。このエクササイズや行事などを通して少しずつ自分の意志を伝えられるように期待した。

(2) 活動⑩⑫「私たちの得た宝物」

ア ねらい

- ・ 学校行事を通して、各自がどのような役割を担い果たしたかを確認し、感動体験をわかちあい、各生徒が存在価値を認識させるようにする。そして、次の行事のステップとなるようにする。

イ 内容

事前の活動

- ・ 行事の事前に、「各自がどのような役割を果たしたらよいか、どういうことをすることが、感動のある体

育大会（合唱コンクール）につながるか」を問いかけ、班ごとに思いつくことを短冊状の画用紙に書く。

- ・ できるだけ具体的な行動目標にする。
- ・ 制限時間内（15分）に一番多く書いた班が勝ち。
- ・ 書いた画用紙を模造紙に貼り、教室の目立つところに掲示する。

行事後の活動

- ・ 行事後の道徳や学級活動の時間に、クラスが丸くなって座る。
- ・ 準備した紙（「くん きみがいたおかげで・・・」と一番上に書いてある）を本人に配る。
- ・ 教師の合図で一斉に右へ渡し、各自がその紙に「きみがいたおかげで・・・」に続く文章を書く。（座っていたいすを机代わりにしてもよい）
- ・ 1分ごとに右へ右へと回していく。
- ・ ひと回りしたら、戻ってきた自分の画用紙を受け取る。
- ・ 読んだ感想と、合唱コンクールでの感想を原稿用紙1枚に書いてくる宿題を出す。次の学級の時間などで班ごとに読み返し、自分たちでよいと思ったものを1人発表する。（時間がとれなければ、教師が数名を選んで全体に読んで聞かせてよい）

ウ 参加者の様子と課題

体育大会での実践

(ア) 体育大会の前日まで

本校では体育大会で、3年生の男子が「組み立て体操」、女子が「さくら（桜の曲に合わせて、代々伝わる踊りと新しい創作の踊りが組み合わされる踊り）」を学年演技として行う。練習を進めていったところ、男子の「組み立て」では、学級ごとに作る五段のピラミッドが、全員がそろわない日もあり、とうとう前日の練習も4段までしかできず、本番で成功させるしかないところで練習が終わってしまった。一度も完成していない学級は他にはなかった。

女子の「さくら」は、孤立状態であったC子がなかなか踊りを覚えられず、練習でC子は簡単に見つけられる程であった。すると体育委員のA子（修学旅行では同じ班だったにもかかわらず、ほとんど相手にしなかった）が、C子につきっきりで教え始めた。

写真1 応援合戦の話し合い

放課後学級で応援の練習や衣装作りをしていると、廊下に二人で音楽に合わせて毎日のように踊り続けた。なかなか覚えられずに戸惑うC子に根気よく繰り返し踊って見せては注意するところを教え、前日の練習ではC子は他の生徒と遜色なく堂々と踊ることができるようになっていた。



また、学年で学級対抗になる応援合戦に向けては、「応援の替え歌と踊り」「衣装」「学級旗」の3つに分かれて準備が行われた。

1学期はあれほどバラバラに感じた学級であったが、休みの日に、ある生徒の家に集まって歌詞と踊りを考えたり、学級旗の係以外の生徒も進んで休みの日に登校し手伝ったりと、生徒同士のかかわり合いがスムーズに行われ、大変よい雰囲気の中で準備が進められていった。体育大会前の休日には学級のほぼ全員の生徒が集まり、残暑厳しい午後の運動場で3時間も本番さながらの練習を行った。

(イ) 体育大会当日

当日は雨が降り出す前に行われた「組み立て」で、いよいよ五段のピラミッドになったとき、「絶対立てるぞ!」「痛くても我慢しろよ!」などと口々にささやきながら、一段また一段と重なってい

った。四段目が上ったとき三段目の左端の生徒の足が二段目の生徒の背中から滑り落ちたが、すかさずその足を補助の生徒と担任の私が下から押し上げ、一番上が上り切るまで苦しい体勢でこらえながら笛の合図で顔を「前、右、左、前」と向け、そして一気に崩した。「うぉーっ」「できたー！」演技途中にもかかわらず、倒れて重なりながら思わず生徒から歓声が上げるほど、生徒たちは達成感でいっぱいであった。

写真2 応援合戦前



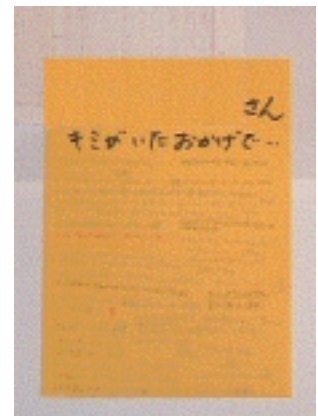
女子の「さくら」は創作部分のクラス演技も全員が気持ちを合わせた迫力ある舞を踊ることができ見事であった。C子も前日の練習でもう少し伸ばせばと思われた腕までぴんと伸びて、他の女子と正に一体となっていた。

応援合戦では足首から頭の先まで「セーラームーン」の衣装や付け毛をつけて全員で練習してきた隊形移動と踊りと歌で2分間演技した。結果は優秀賞(2位)。成績発表の時、はじけるように全員でバンザイをし、感動を分かち合っていた。

(ウ) 振り返り

写真3 キミがいたおかげで

体育大会や応援合戦を準備から当日まで思い返し、一緒に頑張った仲間感謝の気持ちを全員に短いメッセージとして一人一人が用紙を回して書き込んでいかせた。C子へのみんなからの書き込みは次のようである。



「さくら、最後まで覚えてえらかったよ！」
「1番さくら頑張ってきたよね。感動したよ」
「頑張ってたね。私ももっとがんばんなきゃって思ったよ」
「(A子から)さくら頑張ったね。きついことばかり言っちゃって本当にごめんね」

この感想から、学級の生徒がC子の努力と上達した成果を認め、C子は周りから頑張ったことをフィードバックされて、満足そうに笑顔でカードを眺めていた。また、C子の練習する姿から、「さくら」をよりよいものにとという他の生徒の意識まで高まったことは、C子が学級に大きく貢献していたことを表していた。そして、A子だけではなく、他にもC子を支えて練習しており、思いやる気持ちが成長していることが分かった。もちろんA子がひたむきにC子に教えている姿から、A子の努力も学級全体が認めていたことは言うまでもない。

C子は、A子の画用紙の一番上に「さくら教えてくれてありがとう」と書いていた。C子の感想には、「さくらで成功してよかった。最後泣いちゃいました」と書いていた。

その他、一人一人の画用紙に書かれたメッセージに感謝の言葉や頑張ったことを讃える気持ちが込められていた。そのカードをみた後の感想は、次のとおりである。

- ・ このカードは、クラスみんなの言葉が詰まっていて、なんだか見るだけでうれしくなってくるものです。
- ・ 自分の知らない姿が浮かんできました。
- ・ このクラスでよかったと、今本当に思っています。
- ・ 6組が大好きになりました。
- ・ 普段あまり話さない人もどんなことを思っているか分かってよかった。
- ・ もったいないほどの『ありがとう』の言葉。体育大会成功に終わってよかった。
- ・ クラス全体が以前より協力し合えるようになったと思うのは自分だけじゃないと思う。

学級全体が、体育大会に向けて協力する気持ちや頑張っている仲間を認め、支え合う気持ちが高まり、この行事を通して学級が成長していったことに、担任である私自身がこの振り返りの原稿用紙に目を通しながら感動した。お互いを思いやる気持ちが成長したように、その後の生徒たちの様子から感じた。その感想の中から数人の感想を、朝の会で紹介した。自分の感想が読まれて気恥ずかしそうにしている者や、笑顔でうなずいている生徒など、とてもいい表情で生徒たちは集中して聞いていた。

合唱コンクールでの実践

(ア) 合唱コンクールの前日まで

合唱コンクールに向けて、毎年担任としてどのように練習にかかわっていくかが悩みどころである。今年は、指揮者や伴奏者が中心となり生徒同士注意し合って、話し合いを聞いてない者には「聞いて！いい合唱にするんだから」と声を掛け合いながら、生徒たち自身の手で練習を進めていける雰囲気ができていた。これは、体育大会の後に学級で一つになって協力できることの喜びや達成感が振り返りで自分や仲間からフィードバックされて、雰囲気を作りやすくなっていたからだと考えられた。そして、4つのパートが合わさった美しいハーモニーの実現を重点に置いて練習を繰り返していた。美しいハーモニーになるまで、同じフレーズを1日に20回くらい歌うこともあった。全員が納得できるまで何度もやり直したが、全員が真剣に指揮を向いて声を合わせていた。担任はただ、見守っているだけで十分だった。

前日の朝、「明日に向けて、どうしたら感動ある合唱コンクールにできるか、みんなへのメッセージを一人一人書いてほしい」と伝え、書かれたメッセージをプリントして当日の朝、全員の机に置いた。

(イ) 合唱コンクール当日

本番は全員「みんなからのメッセージ」が書かれたプリントを制服の胸にしまって、舞台上上がった。全員が表情豊に歌うことができ、今までで一番美しいハーモニーができた。舞台を降りるとほとんどの女子生徒は抱き合って泣き出し、男子も握手を交わして喜んでおり、歌い終えた満足感を全員が確信していた。

結果発表では、自分の学級が呼ばれることはなかった。全員不満げな表情をしており、悔しさをまた泣き出す生徒もいた。それほど自分たちの歌に誇りをもっていたのである。教室に帰っても、「なんで賞には入らなかったの？」と何人もが質問に来た程であった。

(ウ) 振り返り

机を下げ、いすを円に並べ、合唱コンクール当日のビデオを観た。4つのパートがハーモニーになるところがある度に「きれいにできてるじゃん！」と口々に言いながら、食い入るようにしてビデオを見終わった。「うまいじゃん！」と周りの人と顔を見合わせては、また賞に入らなかったことへの不満をもらした。

「全員でこんなにすばらしい合唱をすることができた。賞には入らなかったけれど、とても満足できるハーモニーだった。

ここまで一緒に頑張ってきた仲間短い手紙を書くようにそれぞれの画用紙にお互いに感謝する気持ちを書こう。」と話した。そして、いすを机代わりに書かせ、右へと渡すように言った。(写真4)

体育大会以来、2度目ということもあり少し長く書く者が多く、時間を延長して行った。自分の画

写真4 メッセージを書く様子



用紙が戻ってくるとうれしそうに読んでいた。全員が自分のを受け取った後、最後に生徒からの申し出で少し時間をとった。すると、指揮者と伴奏者への「宇宙一で賞」という生徒たちの自作の賞状を取り出し拍手で手渡した。仲間の頑張りに対する生徒の自主的な感謝の行動に温かい学級の雰囲気が表れていた。その後の感想は、次のようである。

- ・ こんなところまでよく見ているなとちょっとびっくりしました。自分が書かれてうれしい言葉がいっぱい書いてあってそれを見た瞬間とってもうれしい気持ちになりました。
- ・ 形でつかむ希望より、見えない友情の方が宝物じゃ！
- ・ 今回のこの文化祭で6組の絆がより一層強くなったと思う。
- ・ 合唱コン、今までにない喜びを感じたような気がした。
- ・ この大好きな3年6組で『聞こえる』が歌えて本当によかったです。
- ・ みんな素直にお互いに感謝できたりする6組はどのクラスにも負けていない仲の良いクラスだと思いました。6組、サイコー！
- ・ みんなの文化祭や合唱コンクールへの思いが自分と同じな気がして、6組のみんながひとつになれたなあと思った。

結果的には賞状をとれなかったが、それ以上に学級の仲間とつくり上げた合唱に大きな満足感と達成感を感じ、自分たちが協力して努力してきたことに対する自信をもつことができたことが、この行事の大きな成果であったことが、この感想から読み取れる。体育大会の実践で培った仲間との絆が、この合唱コンクールに十分に生かされた。ここまで学級が成長していったことに、行事を終えてまた感動した。教師の出番があまりなかったことに担任として少し物足りなさも感じたが、贅沢な悩みとも思えた。

4 考察と課題

(1) B子、A子の変容

4月はじめ、B子は意欲を燃やしている他の生徒を冷ややかな目で見ている。体育大会で応援旗のリーダーとなっても、制作中も話していたり、片付けもいい加減であった。ただ、休日の活動時には一番始めに来てはいたが、応援旗作りは難航し、見かねた数人の女子が手伝って、何とか完成させることができた。体育大会の「振り返り」の時、B子は「君がいたおかげで」の画用紙に「旗のリーダーとしていつも頑張ってくれたよね」という言葉を多くの仲間が書いてくれたことに感激していた。B子の感想の中に「私は旗のリーダーだったんだけど、全然頼りなくて、みんなをまとめるなんてそんな大それたことできなくて、みんなに頼ってばかりでした」と書き、この後はみんなへの感謝の気持ちを書いていた。1か月ほどの間は、少し明るさがでてきた感じではあった。そして、合唱コンクールの練習が始まると、リーダーとして前に出ないが、話し合いの時に進んで意見を言ったり、伴奏者の注意に真っ先に注目して耳を傾けたり、真剣な顔で歌ったりなど、目を見張るような積極的に協力的な取組ができていた。そして、わざと人に嫌われるような発言が目立っていたのが嘘のように、合唱コンクール後は、笑顔が絶えない仲間の輪の中で楽しそうに振る舞えるようになった。合唱コンクールの時「振り返り」で指揮者と伴奏者に「宇宙一で賞」を率先して書いて贈ったのはB子であった。

A子は体育大会で学級の仲間から認められたことに自信をもって、合唱コンクールでも表情豊かに合唱練習を盛り上げていた。その姿を見て、頑張っている生徒が認められる学級の雰囲気ができてい

ることを実感した。その後、A子は学習にも最大限の努力を続け、難しいと言われていた受験も見事希望校に合格を果たした。

(2) 学級の帰属意識の高まりと変容

「体育大会」「合唱コンクール」という2つの大きな行事での「振り返り」を行った結果、自分の学級に対して「このクラスで良かった」という感想が多く見られた。そして体育大会後、昼放課には男女十数人で外へ出て手をつなぎながら「花いちもんめ」(写真5)をはしゃぎながらとても楽しそうに行っている姿を見て思わず写真に収めた。

また、学年のほとんどが冬服に替わっている衣替え移行期間最終日には、中学校生活最後の夏服だからと学級全員が夏服で登校し、その日の学年集会でひとクラス全員夏服姿の光景に他の教師たちを驚かせた。教室に帰ると生徒たちは「うちのクラスはすごい団結力だね」と満足げであった。

また、昼放課にはほとんどの女子が外に出て遊ぶことが多くなった中で、C子はその輪の中に入っていなかったが、合唱コンクール以後は普段何気なくC子に言葉をかける女子を見かけるようになり、一緒に外で遊ばないかと誘う姿も幾度かみかけた。C子も笑顔で答え、特別仲良く一緒にいるわけではないが、クラスの仲間の一員であることが感じられる場面が多くあった。

文化祭後「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U」を行った。その結果、学級満足度尺度グラフ(図2)を見ると、5月と比べ、11月はおおよそ学級生活満足群に固まってきた様子が分かった。個別に見ると右への変化が著しい生徒は1学期と比べて表情もぐんと明るくなり、行事への取組も大変積極的で活躍できていたのでこのような結果に出ていた。被侵害得点がやや高くなった生徒も数人いた。これは生徒同士のかかわりが増えたためであり、人間関係に問題がある訳ではないと普段の様子から推測できるが、注意して見守っていた。また、要支援群にいる生徒はもちろんのこと、下方向や左方向への変化が著しい生徒に特に配慮していくようにした。学校生活意欲プロフィール(図3)を見ると、学級との関係の平均得点が上がっていることから、学級に対する帰属意識

写真5 花いちもんめ



図2 学級満足度尺度グラフ

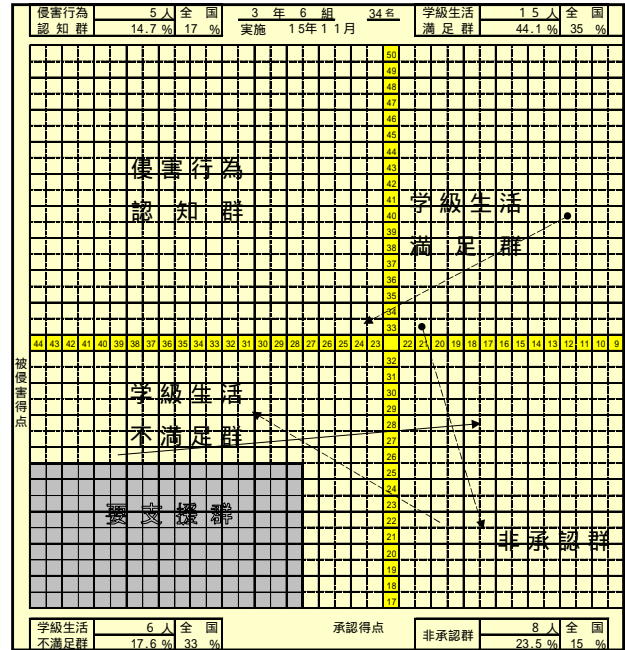
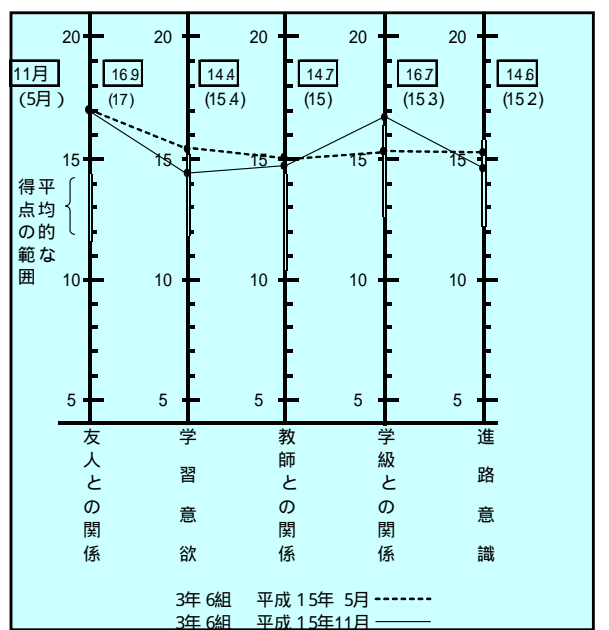


図3 学校生活意欲プロフィール(学級平均)



の高まりが確認できた。学習意欲や進路意識が低くなっているが、自己理解が進んでくると自分を厳しく見るようになる傾向があり、また進路を強く意識し出す時期でもあったのでこのような結果になっていると考えられた。

(3) 成果と今後の課題

3年生の学級を通じての実践で、2つの成果を上げることができた。1つ目は「生徒同士がかかわる経験を重ねることで、仲間づくりや行事へのスムーズな取り組みができるようになった」ことである。それには学級の中で生徒同士が安心して自分を出せる機会を教員がつくることが重要である。「構成的グループ・エンカウンター」の有効な理由は、「相手の良いところを表す言葉を見付ける」や「相手の言ったことを決して否定しない」「感謝の言葉を書く」など、必ず生徒に決められた枠の中で活動することを要求することにある。その枠の中で生徒はエクササイズを重ねるごとに自分を表現することへの「安心感」や「自信」を高めていく。それこそが人とかがわり合う勇気を与え、体育大会の係別活動や合唱コンクールの練習など積極的に仲間とかかわりをもって活動しようとする意欲につながったのである。

2つ目は「学校行事」のもつ教育的意義をより生徒に反映させられたところである。元々行事には「協力」「仲間意識」「達成感」「計画性」「向上心」など様々な教育的意義をもつが、行事を終えた後「振り返り」を行って仲間の功績を讃えたり、自分の功績を仲間からフィードバックされたりすることで、より高い「達成感」や「仲間意識」「感謝する心」を育成することができる。本論中の「私たちの得た宝物」で『君のおかげで・・・』の画用紙に書かれた仲間からのメッセージには仲間への「思いやり」「感謝」「激励」の気持ちが溢れ、受け取る生徒が「仲間」でいることに大きな喜びを感じることができた。振り返りの感想の中でその喜びを素直に表現していることは行事のもつ教育的意義を最大限に生かしていることに他ならないと確信できた実践であった。

今後の課題は、学級活動など年間計画の中に「心を育てる人間教育」をどう位置付けていき、継続的な取組にしていくかである。実践者自身の技量向上に心掛けて、これからも様々な活動で生徒と向き合っていく決意で臨んでいきたい。

《参考文献》

- 「エンカウンターで学級が変わる（中学校編）」國分康孝監修(図書文化 1996)
- 「エンカウンターで学級が変わる Part 2（中学校編）」國分康孝監修(図書文化 1997)
- 「エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集」
國分康孝監修(図書文化 1999)
- 「エンカウンターとは何か 教師が学校で生かすために」
國分康孝ほか共著(図書文化 2000)
- 「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ-U実施・解釈ハンドブック中学・高校用」
河村茂雄著 田上不二夫監修 國分康孝総監修(図書文化 2001)